

奈良県伯母峰峠で発見されたイタヒゲヒメコメツキダマシ

鈴木 互

〒 211-0031 川崎市中原区木月大町 6-1 法政大学第二高等学校生物科 (wsuzuki@hosei2.ed.jp)

Notes on *Hylis yoshidai* (Nakane) (Coleoptera: Eucnemidae) from Oodaigahara Area of the Kii Peninsula, Central Japan

Wataru SUZUKI

Summary. *Hylis yoshidai* (Nakane, 1987) was described based on a single male specimen collected at Mt. Gomadan of the Kii Peninsula, central Japan. However, no additional specimens have been recorded since the original description. One male specimen of *H. yoshidai* was collected by the flight interception trap with Ultraviolet LED Light hanging on the branches of broad-leaved tree at Obamine Pass in the Oodaigahara area. This is the first record in 29 years since the original description. In this short paper, I briefly redescribed some morphological features of this species.

イタヒゲヒメコメツキダマシ *Hylis yoshidai* (Nakane, 1987) (以下、「イタヒゲ」と略す) は、和歌山県の護摩壇山で 1955 年 7 月 25 日に吉田元重氏により採集された 1 雄個体に基づいて命名記載された種である。記載時は *Hypocoelus* 属 [綴りは *Hypocaelus* の誤り = 現在はホソコメツキダマシ属 *Nematodes* のシノニム] に置かれたが、その後 *Hypocoelus* [sic] として記載された多くの種とともに本種もヒメコメツキダマシ属 *Hylis* に移された。本種の形態については、原記載の直後、一般の昆

虫雑誌にも紹介され (中根, 1987b), 広く知られることとなったが、今日まで本種が発見されたという記録はない。筆者は、捕獲許可を得て吉野熊野国立公園の大台ヶ原 (特別保護地区) とその隣接地域において、コメツキダマシの生息調査をおこなっているが、今年、大台ヶ原の隣接地において本種の雄個体を発見することができたので、ここに記録したい。本種の全形写真が公表されるのは、これが初めてである。

本文を草するにあたり、大台ヶ原での捕獲許可取得に際してご配慮をいただいた近畿地方環境事務所の秀田智彦氏と吉野自然保護官事務所の菅野康祐氏、同行され調査にご協力をいただいた大阪府の有本久之氏、本種に関する有益なご助言をいただいた岡山県の渡辺昭彦氏に厚くお礼申し上げます。

イタヒゲヒメコメツキダマシ *Hylis yoshidai* (Nakane, 1987)

(Figs. 1–8)

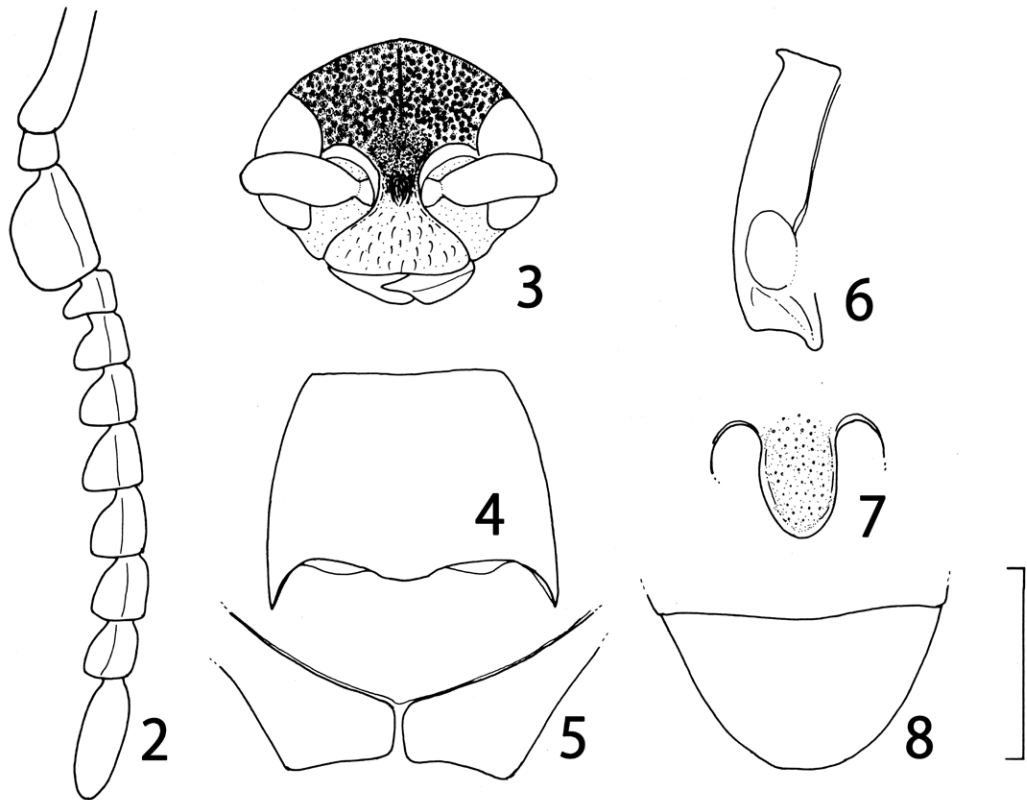


Fig. 1. *Hylis yoshidai* (Nakane, 1987), from Obamine Pass, Nara Prefecture, ♂.

Hypocoelus [sic] *yoshidai* Nakane, 1987a: 175–176, figs. 5 & 6 (Mt. Gomadan in Wakayama Pref.); Nakane, 1987b: 9, fig. 4; Hisamatsu, 1989 (list): Kankyôchô: 346; 243 (list).

Hylis yoshidai: Muona, 2007: 84 (Catalogue).

♂. 形態. 体長: 3.9 mm; 幅: 1.2 mm. 体は黒色だが、触角、後脚基節板後縁部、脛節、跗節、腹部第 5 節後縁部は赤褐色で、口肢は黄褐色となる。背面は黄色の毛で被われるが、上翅後半部では暗褐色となる。頭部は一様に盛り上がり、正中線に



Figs. 2–8. *Hylis yoshidai* (Nakane, 1987), from Obamine Pass, Nara Prefecture, ♂. 2, left antenna; 3, head, frontal view; 4, pronotum, dorsal view; 5, hind coxal plate, ventral view; 6, prosternum and prosternal process, lateral view; 7, prosternal process, ventral view; 8, 5th visible abdominal sternite, ventral view. Scales: 0.5 mm for Figs. 2–3, 5–7; 0.8 mm for Fig. 4.

沿って1本の明瞭な隆起線をもつ、触角間には明瞭な凹陷部があり、その前縁には長毛の束を備える (Fig. 3); 表面はやや密に輪郭の不明瞭な点刻で被われる。頭盾はほぼ平らで、表面は光沢を放ち、無点刻に近い。触角はやや長く、先端は上翅の基部1/4に届く; 第1節は細長く、11節よりわずかに長い; 第2節は最短で、長さは幅とほぼ等しい; 第3節は大きく板状に拡張し、Dの字形 (Fig. 2), 全体は皿状に浅く凹み、直立した軟毛で被われる; 4節は丸みを帯びた三角形で、5節よりわずかに短い; 3節から10節には明瞭な中央縦隆線をもつ。前胸背板は垂台形状で、中央幅の約1.2倍の長さに等しい; 背面は丸く強く盛り上がる; 両側は前縁に向かい丸みを帯びながら狭まる; 後角は後方に鋭く尖る (Fig. 4); 表面は頭部より密に点刻され、側縁部ではやや粗雑となる。前胸腹板突起側面は先端が幅広く切断状となり、背面の突起部は突出し強く丸まる (Fig. 6); 前胸腹板突起の腹面は基部でやや狭まり、先端は丸まる; 表面は全体が浅く凹む (Fig. 7)。後脚基節板は後縁がやや強く張り出

し、鈍く角張る (Fig. 5)。小楯板は縦長の丸味を帯びた三角形で、後縁は強く丸まる。上翅は、基部の2.34倍で、全体に粗雑に点刻される; 条線は第1条が狭く隆起し、翅端まで明瞭であるが、他の条線は不明瞭で、基部では消失する; 翅端部には深く顕著な大孔がある。腹部第5節末端は丸くなり、切断状とはならない (Fig. 8)。

♀. 未知。

検視標本. 1♂, 奈良県吉野郡上北山村伯母峰峠, 30. VII. ~ 2. VIII. 2016, 鈴木互採集・保管。

採集状況. 今回イタヒゲが採集された伯母峰峠は、国道40号(大台ヶ原ドライブウェイ)の標高約1,000mで、周辺には低木の常緑広葉樹と、低木や高木の落葉広葉樹が存在する。この道路脇のサクラ類と尾根治いにあるアセビの枝(高さ1.5~3.0m)にUV-LEDライトをつけたFITを6基設置し、3夜放置した後、回収した資料の中から本種が見いだされた。

分布. 本州(和歌山県, 奈良県)。

備考. ヒメコメツキダマシ属 *Hylis* のコメツキダマシは、旧北区から11種、日本から4種が記録さ

れている (Muona, 2007) が、本種の雄は触角第3節が板状に著しく拡張する特徴から他種との識別は容易である。

今回の伯母峰峠の調査では、イタヒゲの雄個体と共に正体不明の *Hylis* 属の雌が1個体採集された。この雌は、イタヒゲの雄同様に体全体が黒色で、頭部正中線に沿って1本の縦隆線をもつこと (ただし、その長さは短く、基部では消失する)、背面の毛の色は黄色であるが、上翅後半部では暗褐色になること、小楯板は細長く、丸みを帯びた三角形形状であるなどの特徴が認められた。しかし、体はイタヒゲの雄より明らかに太く、両側は平行状となること、頭部の前縁の凹陷部とそこに備わる毛の束を欠くこと、触角第3節は細長く、板状に拡張しないこと、腹部第5節末端は切断状で、弱く波曲することなどの違いが認められた。このような形質の違いは、ヒメコメツキダマシ属に含まれる種の雌雄間に認められるものでもある。この雌個体は、イタヒゲの雌である可能性が高いと思われるが、国内のヒメコメツキダマシ属は既知種以外に未記載種が多く存在するため、これが本種の雌と確認することはできなかった。

大台ヶ原の伯母峰峠 (1,000 m) と本種のタイプ産地である護摩壇山 (1,372 m) は、直線距離にして約 50 km と近く、その途中には標高 1,000 m 前後の山々が隣接して連なっていることから、本種

はこれらの地域一帯に広く分布しているのではないかと推測される。原記載の護摩壇山の採集例が7月25日、今回の伯母峰峠の採集例が7月30日～8月2日とほぼ重なることから、7月下旬に、護摩壇山から大台ヶ原に至る地域の標高 1,000～1,372 m において、継続した調査をおこなえば、今回確認することができなかった雌雄の関係や生態についても明らかにすることができるのではないかとと思われる。

引用文献

- 久松定成, 1989. コメツキダマシ科. 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター・共同編集. 日本産昆虫総目録 I. pp. 346-348. 九州大学農学部昆虫学研究室, 福岡.
- 環境庁, 1995. 日本産野生生物目録 - 本邦産野生動植物の種の現状 - (無脊椎動物 II). 620 pp. 自然環境研究センター, 東京.
- Muona, J., 1987. The generic names of the beetle family Eucnemidae (Coleoptera). *Entomologica Scandinavica*, 18: 79-92.
- Muona, J., 2007. Family Eucnemidae Eschscholtz, 1829. In: Löbl, L. & A. Smetana (eds.), *Catalogue of Palaearctic Coleoptera*, 4: 81-87. Apollo Books, Stenstrup.
- Nakane, T., 1987a. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions. XXXIX. *Review of the Social Science, Miyazaki Sangyo-keiei University*, 1: 171-177, 6 figs.
- 中根猛彦, 1987b. 日本のコメツキダマシ類についての覚え書. 月刊むし, (198): 7-11.

(2016年9月16日受領, 2016年12月21日受理)

【短報】北海道から発見された2種のコメツキダマシ

北海道に生息するコメツキダマシは、これまでに25種余りが知られているが (久松, 1985; 鈴木, 2003, 2008), 広い割には種類数は少なく、調査が進んでいる地域と比べると遅れている状況にある。

筆者は、宮田達美氏が北海道で採集されたコメツキダマシの中に、これまで北海道から記録のなかった2種を見いだしたので、ここに記録しておきたい。

報告をするに当たり、貴重な標本をご恵与くださった、宮田達美氏に厚くお礼申し上げる。

1. セアカヒメコメツキダマシ *Hylis yanoi* (Hisamatsu, 1955) (Figs. 1, 3-4)

1ex., 北海道札幌市円山, 26. VII. 2010, 宮田達美採集 (筆者保管)。

本種は、1954年7月21日に Toshiro Yano 氏により愛媛県の松山市に近い Misaka Pass (三坂峠) で、採集された1雄個体に基づいて *Hypocoelus* [sic] 属の種として命名記載されたものである。その後の採集例は少なく、わずかに、鈴木茂 (2015) によ

る岡山県真庭市と高梁市の記録があるにすぎない。原記載以降、久松 (1985) の図鑑でもその形態について触れられていないので、北海道産の個体に基づいて、その特徴を簡単に紹介しておく。

形態. 体長: 3.6 mm. 頭部, 前胸背板は黒色. 触角は第2節が赤褐色で第3節以降は茶褐色. 脚は黄褐色, 上翅は茶褐色であるが、会合部, 基縁, 側縁, 先端は黒褐色. 腹面は、黒褐色であるが、腹部第5節末端は茶褐色となる。頭部は密に点刻され、正中線に沿って明瞭な隆起線を備えるが、基部では弱まる (Fig. 3). 頭楯基部の凹陷部にはやや長い毛の束を備え (Fig. 4). 前胸背板は密に点刻され、全体に光沢は鈍い。触角第3節は4節より明らかに長く (1.00:0.75), 第4節は次節と同長, 11節は最も長く, 3節の2.25倍に等しい, 腹部第5節の末端は幅広く弧状を呈する。

ヒメコメツキダマシ属 *Hylis* は旧北区から11種が知られ、このうち、4種が日本から記録されている (Muona, 2007). 国内にはこの他にも種名が未確定のものが存在することが知られている (久松, 1985; 渡, 2000). 形態が酷似する種が多く、同定